

新都市医師会長の紹介

美幌医師会会長

田中 克彦 先生



平成28年6月、前美幌医師会会長の工藤康生先生が勇退され、新たに田中克彦先生が第6代美幌医師会会長に就任されました。田中克彦先生のお父上も第3代会長を務めておられ、親子2代にわたる美幌医師会会長の誕生となりました。

田中克彦先生は美幌町のお生まれで、昭和61年に北里大学医学部を卒業されました。その後、同大学胸部外科に入局され、北里大学附属病院や榊原記念病院心臓血管外科に勤務されておられました。平成5年7月に美幌に戻られてからは、お父上の開設された医院で副院長として勤務され、平成14年4月に同医院院長に就任されました。現在、同医院には田中院長の他に2名の医師が勤務しており、専門の循環器疾患ばかりでなく内科全般と小児科を標榜する美幌町で最も大きな診療所となっています。田中先生は早くから訪問診療や自宅での看取りなど、時代の流れを先じた医療を実践されて来られ、一方、美幌医師会においても、これまで副会長として工藤前会長を補佐し医師会活動を支えてこられました。

田中先生の人となりもご紹介しましょう。先生はいつも仕立ての良いスーツでスリムな身を包んでおられます。中学生の時から東京に住んでいたからでしょうか、マクドナルドもスタバもないような田舎町に戻っても、着こなす服装には都会的なセンスの良さが目立ちます。そんなダンディな先生ですが、趣味はなんとマラソンです。地元で開催されるビホロ100kmデュアスロン大会、さらには東京マラソンなどフルマラソンにも参加され、最近ではサロマ湖100kmウルトラマラソンを12時間で完走されたとのこと。50歳代という年齢を考えると、そのタフさは驚くばかりです。

重責を担う医師会会長の職務は激務と思われませんが、田中先生はマラソンで培った忍耐力をもって職務を遂行され、必ずや大きな業績を成し遂げ美幌医師会の発展に尽くされることでしょう。

美幌医師会
理事・北海道医報通信員 松井 寛輔

釧路市医師会会長

久島 貞一 先生



平成28年6月17日に行われた釧路市医師会定時総会後の理事会において、齋藤孝次前会長の後任として、久島貞一先生が第14代の会長に就任されました。

先生は昭和25年生まれの66歳です。昭和50年北海道大学医学部を卒業され、泌尿器科学講座に入局されました。市立札幌病院、市立苫小牧病院、旭川医科大学病院にてそれぞれ1年間の勤務のご経験があります。昭和59年市立釧路総合病院に泌尿器科医長として赴任なされ、慢性腎不全患者に対する血液透析療法も積極的に行われ、道東で初めての腎臓移植も手掛けられました。釧路の夏の冷涼な気候、そして秋から冬にかけての澄み切った青空に惹かれての赴任だったようです。血液透析患者さんがもっと快適に過ごせるクリニックを作ろうとの思いから、平成2年に釧路泌尿器科クリニックを開設し、以来27年間一般泌尿器科と血液透析外来の診療を行っておられます。開業後の平成3年に先生たち透析医数名で立ち上げた釧根透析研究会は今年30回を迎えるそうですが、地域の透析従事者たちの演題に加え、毎年道内の指導的立場の先生にご講演を頂き、地域の透析医療従事者の質の向上に大変な貢献をしているようです。

お子様はすでに独立され、現在は奥様と二人暮らし。時々行かれる奥様との小旅行が楽しみなようです。最近宮古島のきれいな海にはまっているようです。海岸で熱帯魚を見ながら短時間のシュノーケリングを楽しんだ後のオリオンビールが極上とのこと。

釧路市医師会では平成9年から理事6期、副会長4期を務められておられます。夜間急病センターの運営、健診センターの運営、看護学校の運営等、釧路市医師会独自の事業の継続、人的医療資源の偏在の解消、地域医療構想をにらんだ地域医療介護包括システムの構築、その他難しい課題が山積しておりますが、地域住民が安心して暮らせる医療環境の整備に向けて、今こそその力を発揮していただきたいと願っております。

先生におかれましては、今以上にお忙しい日々が続くと思われませんが、どうか健康に留意されご活躍されることを祈念いたします。

釧路市医師会
理事 間宮 政喜